令和６年度発掘調査速報

末松遺跡

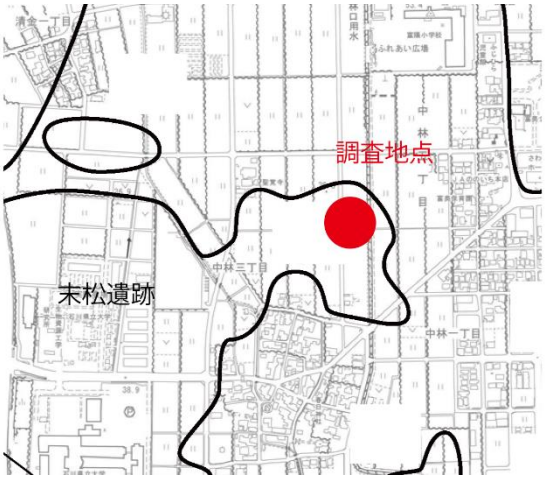
調 査 面 積	3,038 ㎡
調 査 期 間	令和６年４月～９月
遺跡の種類	集落跡
遺跡の時期	古代、中世
主 な 遺 構	掘立柱建物、竪穴建物、溝、土坑、小穴
主 な 遺 物	縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、打製石斧

概　　要

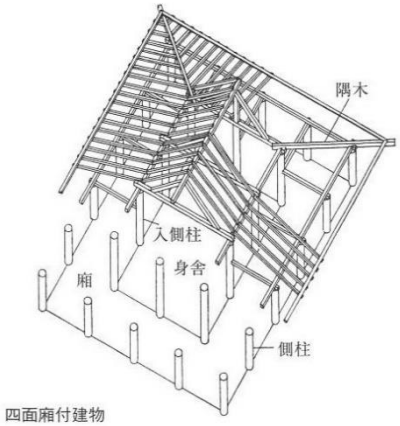
末松遺跡は、国史跡末松廃寺跡の東側に位置し、中林土地区画整理事業に伴い平成 29 年度から継続的に発掘調査を行っています。

令和６年度は区画道路及び調整池を建設する範囲の発掘調査を実施しました。主に古代（奈良・平安時代）から中世（鎌倉・室町時代）の集落跡が見つかりました。古代は掘立柱建物、地面を掘り下げて床面を設ける竪穴建物、中世は掘立柱建物などを確認しました。

特に、区画道路部分で検出した古代の掘立柱建物は、直径約 60 ㎝の柱穴が南北方向に４つ並び、その列の隣に一回り小さい直径約 40 ㎝の柱穴が並んで見つかりました。穴の並び方から、一回り小さな穴の列は建物の廂部分であった可能性が考えられます。古代において、廂付きの建物は一般的ではないため、重要な建物であったことがうかがえます。



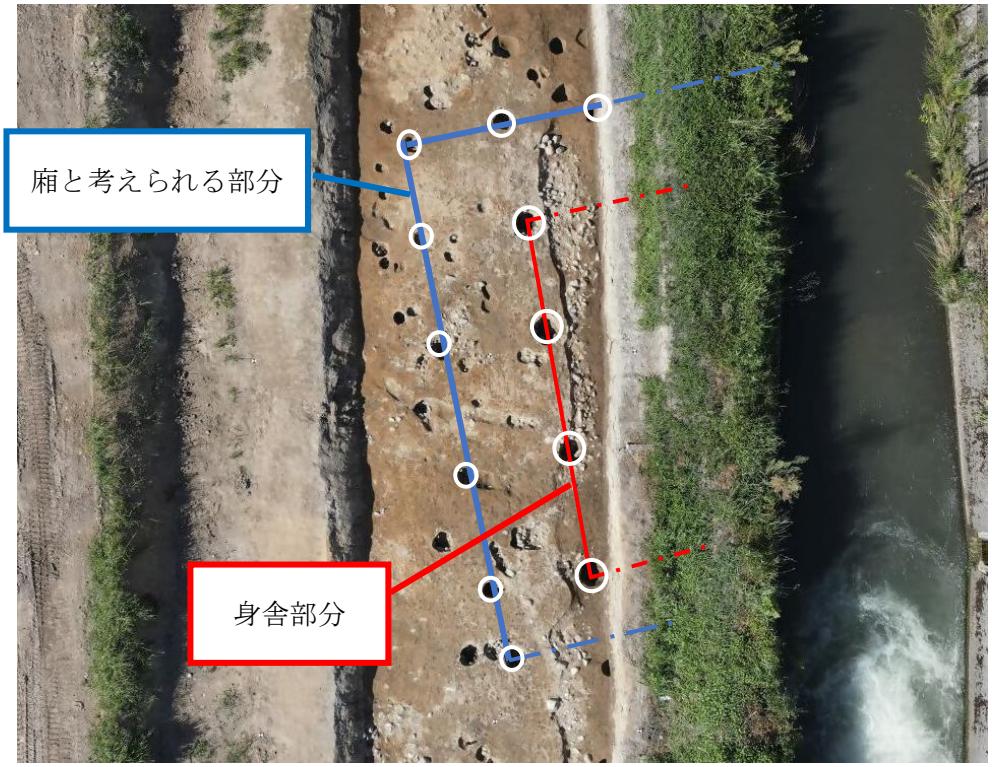
遺跡の所在地



身舎・廂と屋根の構造

（2010『発掘調査のてびき―集落遺跡発掘編―』）

調査区の様子（調整池部分）



古代の掘立柱建物